

淀川水系流域委員会 第27回猪名川部会 結果概要

開催日時：2005年8月18日（木）15：00～16：10

場 所：池田市民文化会館 2階 コンベンションルーム

参加者数：委員13名、河川管理者（指定席）10名 一般傍聴者93名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、
後日公開される議事録をご参照下さい。

1. 決定事項
2. 審議の概要
 - ①余野川ダムに関する調査検討結果について
3. 一般傍聴者からの意見聴取

1. 決定事項

- ・ 次回の猪名川部会は9月11日（日）14：00～17：00 OMMビルにて開催する。

2. 審議の概要

①余野川ダムに関する調査検討結果について

池淵部会長より、「5ダムの方針」における余野川ダム計画や猪名川の河川整備について質問がなされた後、河川管理者からの説明と委員との意見交換がなされた。部会長の質問内容と主な意見交換は以下の通り。

・ 質問事項①

「5ダムの方針」では、余野川ダムは「当面実施しない」としているが、「当面」について、再度お聞きしたい。また、「5ダムの方針」では「今後、水系全体の社会経済状況の変化や河川整備の進捗に応じて、治水上の緊急性について検討する」としているがもう少し具体的に説明して頂きたい。

・ 質問事項②

現在実施している中の島地区無堤部の整備及び浸透・侵食に対する堤防補強は、当該狭窄部の開削による上流からの流量増に対する補強対策ではないと理解してよいか。また、開削による水位上昇抑制策としての下流の河道掘削は、中の島地区無堤部の堤防補強の実施を前提に位置づけられていると理解してよいか。下流の河道掘削は水位が堤防天端マイナス余裕高を超えないことを目標に行われると理解してよいか。河道掘削にあたっては、中州掘削だけではなく、運動公園部分掘削や高水敷の緩傾斜化なども検討に値すると考えている。

・ 質問事項③

堤防強化は、ダムにかかわらず実施するとしているが、「堤防補強」と「堤防強化」の違

いは何か。

○河川管理者の説明と委員との意見交換

質問事項①「当面実施せず」の「当面」に関する意見交換

- ・「当面実施せず」の「当面」を具体的にはっきりさせることはできない。「5ダムの方針」で、水系全体の社会経済状況の変化や整備の進捗に応じて治水上の緊急性について検討するとしているとおり、検討の結果明らかになってくる。社会経済の変化に応じて河川管理者が投資できる予算がどうなっていくのか、被災の状況がどの程度なのか、他の地域の事業がどの程度進んでいくのか、その進捗に応じて相対的に猪名川の整備の優先度がどう上がっていくのか。これらの検討を進めていく中で「当面」が詰まっていく（河川管理者）。
- ・「当面実施せず」という記述は誤解を生むおそれがある。「社会情勢や緊急性が変わらない限り、期待してくれるな」という辺りに重点を置いた記述にしておかないと誤解を生むのではないかと。
 - ←今後のことは、現時点でははっきりと申し上げられない。検討を進めて、はっきり言えることがあれば申し上げるようにしたい（河川管理者）。
- ・猪名川の河川整備は、急がないといけない。狭窄部の開削と下流の河道掘削を実施することだが、優先順位を決めて、順調に進んだ場合のスケジュールを整備内容シートとして示してほしい。
 - ←現時点では、明確なスケジュールはない。下流の河道掘削と狭窄部開削については関係する府県と調整していきたい（河川管理者）。
- ・参考資料5で、猪名川の具体的な治水工事の事業費内訳がでていますが、コストが高い気がする。
 - ←第42回委員会にて、昨年12月以来の大阪府との調整の結果、160億円になったという資料（審議資料1-6-5「余野川ダムの調査検討（とりまとめ）」）を出している（河川管理者）。
- ・「当面実施せず」を「余野川ダムは諦めざるを得ない」という意味で理解した。河川管理者は「今後、水系全体の社会経済状況の変化や河川整備の進捗に応じて、治水上の緊急性について検討する」という「5ダムの方針」を尊重してほしい。ダムによって平常時の河川の水を確保していくことについて議論する余地があると思っているが、ここまで計画の進んだ余野川ダムを「当面実施せず」としているのは残念だ。
 - ←河川の維持流量については検討してきた。自然に瀬切れするならば、それが自然の河川だという議論をしてきた。また、中小洪水をダムでカットしているため高水敷に水が乗らなくなったが、これもできるだけ自然のリズムに合わせたものにしようというのがこれまでの議論だった（委員）。
- ・余野川ダムでは他のダムとは違って、既往最大の降雨ではなく第2位の降雨を対象に検討している。他のダムとは基準が違っている。既往最大の降雨を対象にした場合はどう

なるのか。慎重に検討して欲しい。

←既往最大を対象にすると、河川整備計画の20～30年という期間では無理であり、たとえ余野川ダムであっても対応できない。委員会で十分な検討をした結果、第2位を対象にした（委員）。

←既往最大降雨は1/4000で非常に稀ということだが、100年程度のデータを対象にした計算で1/4000という数値を出せるのか、疑問だ。この流域の既往最大降雨は、それほど大きな雨だとは思っていない。20～30年では実現できないということだが、100年先に目標を置いた整備でも構わない。他の河川と同様に、既往最大を目標として掲げ、20～30年で第2位の降雨に対応していくという戦略で進めればよい（委員）。

質問事項② 下流の河道掘削に関する意見交換

- ・中の島地区無堤部の整備と堤防補強は、狭窄部の開削に関わらず実施しなければならない対策である。また、下流の河道掘削は、天端マイナス余裕高を上回るような超過洪水対策として位置づけられている。河道掘削にあたっては、中州掘削だけではなく、運動公園の部分掘削や高水敷の緩傾斜化も検討の対象となる。環境への影響についても自然環境委員会や河川保全利用委員会の助言を得ながら検討を進めていく（河川管理者）。

質問事項③ 堤防強化に関する意見交換

- ・基礎案では、「堤防強化」という言葉は、堤防強化対策は高規格堤防と堤防補強を含めたものとして使用している。猪名川では、浸透・侵食対策を目的とした堤防補強を進めている（河川管理者）。
 - ←「堤防補強」によって侵食・浸透対策が完了してはじめて、天端マイナス余裕高の水位に耐えられる堤防になるということによいか。
 - ←堤防補強による侵食・浸透対策は、天端マイナス余裕高の水位までの洪水に対する安全性を持たせるために実施する。今後、緊急区間5km以外についても順次調査を行って対策をしていく（河川管理者）。
- ・高規格堤防は超過洪水対策であり、堤防強化は侵食・浸透対策という理解をしていた。堤防補強と堤防強化は同じではないか。最近の河川管理者の資料は、「堤防強化」になってきていると思うが、きちんと使い分けているのか。
 - ←少なくとも基礎案では、堤防強化という広い概念があり、その中に堤防補強と高規格堤防があるという書き方をしている（河川管理者）。
- ・天端マイナス余裕高までは壊れない堤防にするための対策が堤防補強で、それ以上でも耐えられるような対策が堤防強化というイメージを持っている人が多いのではないか。
 - ←基礎案では、堤防強化と堤防補強を書き分けているが、この書き分けが必ずしも一般的な通念ではないと思う。現在、技術的な手法と基準があるのは浸透・侵食対策である。越水対策の技術的な手法としては高規格堤防しかない。当然、高規格堤

防ではないところでも、越水に対して粘り強くなるように整備する必要があり、そのための技術的な検討も始めている。目指すべき方向は同じだと思っている（河川管理者）

←天端マイナス余裕高までは確実に頼りになる堤防にし、さらに+30cm でも大丈夫な堤防にできれば、堤防で様々な対策が実施可能になる。これまでの説明では、「堤防補強」の次の段階が高規格堤防になってしまっているが、この間の対策はないのか。河川管理者は「間の対策」の研究を始めていると理解してよいか。

←堤防の壊れ方は浸透・侵食・越水がある。ダムとの議論とは関係なく、考えていかないといけない。越水対策については、具体的な方法や技術的な基準も詰まっておらず、法令上の整備もできていない。天端マイナス余裕高の水位を超えてしまうと越水対策も考えていかないといけないが、具体的な方法や技術的な基準がないので、天端マイナス余裕高で考えている（河川管理者）。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者5名からの発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・以前、「当面実施せず」の「当面」について河川管理者に質問したところ、「20～30年の間」という回答を得た。先ほどの河川管理者の説明とは食い違っている。どちらが正しいのか。また、「ダムはやめた」という委員の発言があったが、そうではない。慎重に発言して頂きたい。堤防補強や堤防強化に関する議論は言葉遊びではないか。100年、200年先を見た議論をしないといけない。

←今後、計画内容を調整して確定していく。仮に「5ダムの方針」がこのまま確定した場合は、今後20～30年を対象とした今回の河川整備計画では、余野川ダムについては「実施する」とは記載されない。この説明の中で「20～30年の間」という言葉が出てきたと考えている（河川管理者）。

←河川管理者は「5ダムの方針」と出す前にきちんと調整しておく必要があった（一般傍聴者）。

- ・余野川ダムの地元住民にとっては中止に近い結論に聞こえる。余野川ダムが中止なら、これまでの地元の経過や犠牲、野放しになっている山林への対応について委員会で議論して、河川管理者に今後の方針を示して頂きたい。

←ダム建設工事付近の荒廃した山林については、委員会として意見を述べたらよいと思う。ただ、余野川ダムが中止になった後の地域の活性化等に関しては委員会では到底及ばない（委員）。

←委員会見解で、仮に余野川ダムが当面実施しないとすれば、河川管理者は地域への誠意ある対応をすべきだと記述した。具体的にどのような対応をすればよいかは検討できていないが、委員会としても真剣に考えていく（委員）。

- ・猪名川の計画変更によって、下流側で治水の負担を被っている状況。下流の河床が上

っていることが原因なので、下流の河道掘削には反対しないが、20～30年経てば自然に河床が上がってしまうのではないかと。やはり、さらなる堤防補強を望みたい。

- これまでの委員会での審議の結果、既往最大ではなく、第2位を目標とした。委員には、これまでの議論をきちんと踏まえて頂きたい。また、余野川ダム後をどうするのか、水と緑の健康都市をどうしていくか。委員会は、これまでのことではなく、これからのことを考えてほしい。

←既往最大の降雨は、それほど大きな降雨だと思っていない。1/4000 1という評価が過大だと思っている（委員）。

- 九州の球磨川の八代の堤防強化はスーパー堤防の予算がついて引っ込めた。越水対策については法的に整備がされていないという説明があったが、近畿地方整備局は方針を出せないのか、本省の指示を待っているのかをお聞きしたい。

以上